

アウル 通信



『初心』

2022 6 1発行第 218号

さて、私毎ではありますが、少しお付き合いいただけたと幸いです。アウルは、たとえ認知症の状態であっても「人として」の尊厳を守るために立ち上げました。先月も書きましたが、私は昭和63年に、社会福祉法人幸清会特別養護老人ホーム幸豊ハイツ（100名定員）の寮父として採用されました。当時の施設は、収容又は隔離型のホームが多く、入居者（利用者）の行動を制限し、彼らの行いをすべて問題行動とし、転倒し骨折するからと、車椅子に紐で縛り動けない状態にしていました。食事介助といえば、ご飯もおかげでも何もかも混ぜて、こちら側のペースで食べさせていました。挙句の果てには、薬まで混ぜていました。新人だった私は先輩にそう教えられました。そんな時でした。私が食事介助していた男性入居者の方が、喉を詰まらせ、そのままチアノーゼが現れ、あつという間に僕の目まで呼吸困難となりました。その時の私は何も出来ず、ただただその場に佇むだけでした。そして、最悪な結果を経験することになってしまいました。その時のことを見出すると、胸が苦しくなり自分を責めてしまいます。オムツの交換では、公然と廊下や他の人がいる前や居室で、カーテンもせずにいました。今思うと、痴呆だから何もわからない人、頭の病気だから何をしても感じない人などと、心のどこかで思っていました。そのくせ、私たちの思い通りにならない行動をすると、スピーチロックして行動を制限していました。

伊達にアウルを立ち上げる時、介護（ケア）の技術的に下手くそでも、最低限、基本的に「人として」「やさしく」「ゆっくり」「楽しく」「丁寧に」を大前提に暮らしを整えていく、その暮らしの支えになろう、そして彼らの自尊心が高まるように支えていく、そういう心に誓いました。少なくとも、以前私がしてきたような、職員の都合で介護（ケア）することはしないようにしよう、そう信じてこれまで実践し内外に伝えてきました。

今、私たちが今行っている介護の良し悪し、つまり物事の是非は、そうした決断した時に決まるものではありません。評価が定まるのは、常に後になってからです。もしかしたら、間違っているかもしれません。だからこそ、今、自分が正しい信じるものを選択するために自問自答を続けていかなければいけないと思っています。

アウルの願いは、ここで生活されている方々の「しあわせ」です。その「しあわせ」が、すべての皆さんの「しあわせ」に繋がることを願っております。

感謝

アウル 宮崎直人

今月の題字は
久野永子様
が
書いて下さいました。

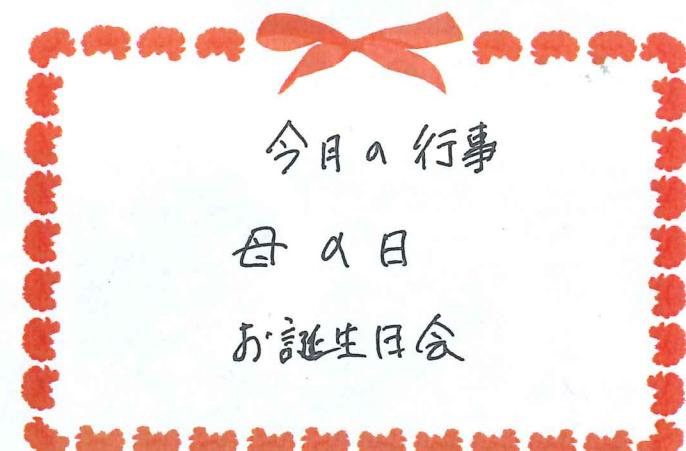
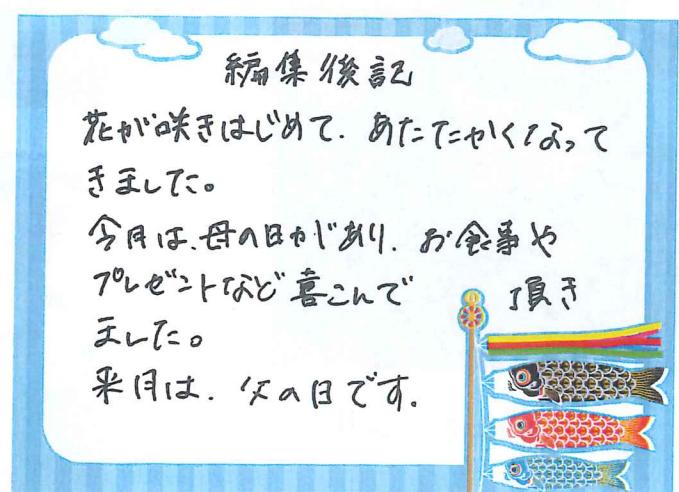
認知症とは…

認知症は特定の病名ではなく、脳の病気や障害などによって、認知機能が低下し、記憶や判断力の障害などが起こった状態のことと言います。

認知症の原因疾患で、2番目に多いとされる脳血管性認知症とは…。

脳血管障害で起きる脳梗塞や、脳出血によって起こる。

進行速度は緩やかですが、脳血管障害が再発するたびに悪化するリスクが高い。



入居のご相談について

ご家族が「もしかしたら認知症かも？」
グループホームに入居したい
グループホームを見てみたい、などなど
気軽にご相談、ご見学ください。
また、今入居されている方のご家族の皆様も
生活の相談等、気軽に声をかけて下さい。

担当窓口 宮崎

発行責任者 宮崎直人



今日はごちそうたくさん召し上がれ♪



盛り付けアロ



いつもありがとうございます。



ジエントルマーン!!



母の日アロセント♥



下北沢はまさご(大ベテラン!)



キッチンにいてほいあらたり



一生懸命です



今日は乾きもう

